

年前田治脩の參勤に従ひ、途信州關川に至つて麻疹に罹り、五月十七日四十五歳を以て歿した。茂雅學を好み、字を執禮、號を屏翰、所居を畜德堂と稱し、最も藏書に富んだ。

ヨシダシゲマサ 吉田茂正 吉田左近茂武の三子に茂貞があつた。初諱茂時、通稱傳彌。

左吉郎。富山侯に仕へ、天和元年九月廿七日七十三歳を以て歿。茂正は茂貞の次子で、通稱を丹右衛門といひ、大聖寺侯に仕へ、隱栖して道林と稱し、寶永二年八月廿五日歿した。後歴代丹右衛門を通名とする。

ヨシダシゲミチ 吉田茂陸 茂清の子。幼名權佐、後左近右衛門。初諱茂敬。祿六百五十石。御持弓頭・御射手裁許に歴任し、享保八年九月廿七日五十七歳を以て歿した。

ヨシダシゲユキ 吉田茂行 通稱久兵衛。平兵衛茂存の養嗣子として祿五百石を受けた。實は同姓茂陸の二子。御先弓頭・御持弓頭に歴任し、安永五年十月廿四日六十九歳を以て歿。茂行最も家藝の射技に精しく、當時獨樂名を擅にした。養子右臺後宇右衛門家を襲いだが、天明三年十月江戸に於いて亂心の体で送還せられ、四年九月十七日知行を失ひ、八年寺西才一郎茂延を名跡として三百石を興へられた。

ヨシダシチロエモン 吉田七郎右衛門 前田利常に仕へて百十石を領した。子孫藩に世襲する。

ヨシダタンジ 吉田丹次 寶曆十年御歩小頭として新知百石を受け、安永五年組外に列し、二御丸御廣式御用達に任じ、同年十二月七日六十二歳を以て歿。子孫藩に世襲する。

ヨシダチヨウシユク 吉田長淑 江戸の人。

諱は成徳、字は直心、號は駒谷又は關驛。幕醫土岐長元に漢法を學び、後桂川甫周に従うて蘭學を修め、遂に蘭書に就いて内科の研究を初めた。文化七年前田齊廣嘗て病を診せしめた江戸の蘭醫宇田川玄眞の薦によつて之を祿し、巖俵三十人扶持を興へ、翌年別に年額二十兩を給して翻譯の資に宛てしめた。長淑の泰西熱病論・同後編・内科解環等を著し得たのは之に依る。文政七年長淑前田齊廣を診せんが爲江戸を發し、途越後高田から疾に罹り、金澤に着した後八月十日に歿。享年四十六。棟岳寺に葬る。

ヨシダナホサスケ 吉田尚左助 通稱遠霞。藤藏・津右衛門。妻は大槻長左衛門の養妹であつた。初め御居間坊主、享保十五年新知百石を得て新番並となり、元文五年百石を加へ、組外に班し、御近習番・南御土藏奉行に任じ、安永三年十二月廿九日七十三歳で歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

ヨシダナホマサ 吉田直政 淑茂の子。通稱平九郎・左膳・左近右衛門。初諱茂正。安政六年八月六日五十八歳を以て歿した。

ヨシタニ 吉谷 鳳至郡山田郷に屬する部落。明治中に至り、谷屋・神道と併合して柿生と改稱した。

ヨシタニゴロウ 吉谷五郎 元享元年四月十日附の判書に、山内庄地頭吉谷五郎・同子息虎丸の名が見える。能美郡上吉谷村又は下吉谷村の住人であらう。

ヨシタニタウゲ 吉谷峠 能美郡下吉谷に屬する。祇陀寺文書永享十年正月十一日上野介滿宗判書に、『奉寄進加賀國河内庄畠地事。中略。一所小野山。南は大ひらをさかう。西は

みこの清水の藥堂をさかう。北は御子の清水道善地さかう。東は吉谷のたうげをさかう。』とある。

ヨシタニノセキシヨ 吉谷の關所 能美郡下吉谷に在つた。寛永十五年越前の領境を警める爲、下吉谷村に關所を設けて原與三右衛門を奉行とし、十七年亦手取川を隔てた吉野にも關を置いたが、共に間道があつたから、吉谷の關を河原山に、吉野の關を木滑に移した。

ヨシタヌヒノスケ 吉田縫殿助 前田利家に仕へて百八十石を受けた。二子與左衛門家を襲ぎ、それより三代伊右衛門に至り、正徳四年自殺して斷絶した。

ヨシダノブズミ 吉田申純 通稱政次郎・丹次郎。父は市兵衛申善。寛政十三年三月家秩百石を襲ぎ、定番馬廻に班し、天保十五年七月五十石を加増せられ、嘉永元年十月廿二日五十九歳を以て歿。申純は瀛洲と號し、山水花鳥を畫くを樂とした。

ヨシダノリナカ 吉田軌中 通稱八十郎・澁右衛門。元祿十一年父喜左衛門の後を受け、百五十石を領し、寛保元年正月十八日七十二歳を以て歿した。その著に前田四代自記がある。

ヨシダバシフシンジョヤク 吉田橋普請助 寶曆元年十二月五日大聖寺侯前田利道役、幕府から三河國吉田橋の普請助役を命ぜられ、二年五月完成したが、工事粗漏の故を以て三年七月廿六日再造を命ぜられ、四年三月十三日竣成した。その經費前後五萬三千兩、多く加賀藩の補助によつた。家老野口兵部、山崎權承等の隠居を命ぜられたものが爲であつた。

ヨシタホ 吉田保 鹿島郡に在つた。承久三年注進の能登國田數目録に、『吉田保、五町貳段三、承久元年檢立定』とある。後世亦吉田保がある。

ヨシタホ 吉田保 鹿島郡に屬し、藩政時代では、吉田・七原の二ヶ村を含んで居た。

ヨシダマゴスケ 吉田孫助 近江の人吉田安藝守の子。初め堀秀政に仕へたが、慶長五年前田利長に臣事し、二千石を受けた。子孫世々藩に仕へる。

ヨシダマサナホ 護田正直 通稱貞右衛門。内膳。父清正の遺知五百石を襲ぎ、御大小將横目・定番御番頭・御留守居物頭に歴任し、享保十二年致仕、十三年十一月九日七十五歳を以て歿した。

ヨシダマタエモン 吉田又右衛門 初め前田利秀に仕へ、後利家に屬して二百石を受けた。子孫藩に世襲する。

ヨシダミツマサ 吉田光政 直政の子。通稱權太郎・大膳。初諱茂壽。明治廿五年四月十三日五十四歳を以て歿した。

ヨシタモエモン 吉田茂右衛門 太田但馬長知の家臣。末森及び鳥越の役に功有つて百石を加増せられ、大聖寺役に又二百石を加恩し、合はせて四百石となつた。慶長七年五月主但馬の服誅後大聖寺城の戸次丸を守り、前田利長の手書を得て初めて城を開いた。之を以て茂右衛門は知行を放たれたが、次いで三輪長好の與力となり、二百五十石を受けた。後四代の末孫與兵衛に至つて伴八矢の與力となり、其の子勲右衛門守尚の時安永元年本組與力となつた。